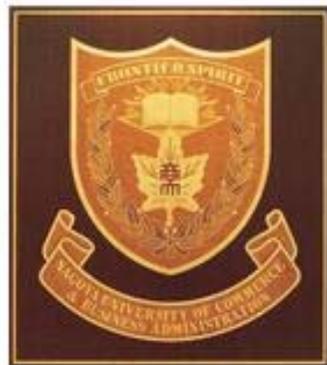


私立大学情報教育協会主催  
教育改革ICT戦略大会 (2016.9.6)

## アクティブラーニング の振り返りと課題

～カタチにとらわれることなく  
主体的・対話的で深い学びに向けて～



名古屋商科大学  
経営学部・教授  
亀倉正彦  
kamekura@nucba.ac.jp

# 最初のご質問

アクティブラーニング(Active Learning; AL)について

## 0. 「アクティブラーニング」の用語について

- ①聞いたことがあるがよく分からない
- ②何となく知っているが実践したことはない
- ③十分には理解していないが実践している(つもりである)
- ④十分に理解・実践している
- ⑤その他

# 自己紹介：主要な所属学会・委員会

- ☆日本経営学会 ☆組織学会
- ☆日本マネジメント学会(旧：経営教育学会)
- ☆大学教育学会 ☆NPO法人失敗学会
- ☆(学内)教務委員長(H23-H25)
- ☆(学内)地域活性化研究センター
- ★高等学校商業研究発表大会(愛知県)審査委員
- ★リニモ沿線地域づくり会議委員(愛知県)
- ★総合戦略推進委員会(日進市)
- ★その他(日進市、長久手市、豊明市など)

# 本日の講演の流れと狙い

## 1. ALの振り返りと課題 ～3つの質問～

「ALについての常識の破壊そして再構築しよう！」

→ 失敗事例からみるとALにカタチはない

## 2. ALの効果を高めるノウハウ

「こんな場面にどう対応する？」

→ アクティブラーナーへの第一歩を踏みだそう！

## 3. PBL教育について

「個別授業の限界を実感した失敗事例を紹介！？」

→ 質保証カリキュラム／地域連携／知識創造

# 1. ALの振り返りと課題

(1) AL定義からの学び

(2) AL失敗マンダラと失敗基本3パターン

(3) 3つの質問

基本メッセージ:

ALによって、「①何を学ぶのか」、「②誰が何のために学ぶのか」、「③誰がその学びに責任を持つのか」について教育現場は問われている。

# アクティブラーニング(AL)とは何か

定義:

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた**教授・学習法の総称**。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブラーニングの方法である。」(文部科学省)

手法:

- ①グループワーク、②プレゼン、③ディベート、
- ④フィールドワーク、⑤振り返り(reflection)

# 中央教育審議会 H28.8.1 でのアクティブラーニング ～ 教育課程企画特別部会での審議まとめ(素案) 資料1

◆「学習内容を深く理解し、**社会や生活で活用できるようにする**」

◆「**学習過程を質的に改善する**」

◆「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す」

①**主体的**...学ぶ意味と自分の人生や社会のあり方を主体的に結びつけていく

②**対話的**...多様な人との対話や先人の考え方(書物等)で考えを広げる

③**深い学び**...各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したり表したり、思いを基に構想・想像したりする

→ 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点から学習指導要領の総則を抜本的に改善する。

→ 各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実施を促進する。

# 中部地域大学グループ

取組名称: 中部圏地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化

文部科学省

## 中部圏産学連携会議

### 中部地域大学グループ

#### 中部地域大学教育改革推進委員会

助言・検討

アドバイザーボード  
名大・リアセック・失敗学会

#### 教育力

取組テーマ: アクティブラーニングを活用した教育力の強化

#### [東海地区]

東海Aチーム  
(教育力強化)  
7校

《副》名古屋商科大学  
幹事校三重大学  
愛知産業大学  
椋山女学園大学  
中部大学  
豊橋創造大学  
豊橋創造大学短期大学部

東海Bチーム  
(連携力強化)  
6校

《副》名古屋産業大学  
岐阜大学  
同朋大学  
日本福祉大学  
名城大学  
愛知大学短期大学部

[静岡地区]  
静岡チーム  
(教育力・連携力強化)  
4校

《副》静岡大学  
静岡理工科大学  
静岡英和学院大学短期大学部  
東海大学短期大学部

[北陸地区]  
北陸チーム  
(教育力・連携力強化)  
6校

《副》金城大学短期大学部  
金沢大学  
福井大学  
富山県立大学  
富山国際大学  
金沢工業大学

#### 連携力

取組テーマ: 地域・産業界との連携力の強化

#### 企業

中部電力(株)  
デリカフーズ(株)  
(株)JTB中部 コマツ (株)  
百五銀行

#### 経済団体

経営者協会(東海北陸7県)  
中部経済連合会

#### 行政機関

経済産業省  
中部経済産業局  
厚生労働省/労働局

#### 教育機関

学校法人河合塾

# AL失敗事例HBの目次から

## 【はじめに】

アクティブラーニング原因マンダラ

アクティブラーニング結果マンダラ

## 【指導】

指導 1 「課外活動における学生の怠慢な態度」

指導 2 「商品開発後の販売の難しさ」

指導 3 「グループワークでの学生の貢献度の差異」

指導 4 「社会人基礎力の向上が認められない」

指導 5 「プロジェクト活動における企業連携事業の進捗遅れ」

指導 6 「リーダー不在のグループ活動に対する教員の支援」

⋮

## 【評価】

評価 1 「アクティブラーニングの成果評価の困難さ」

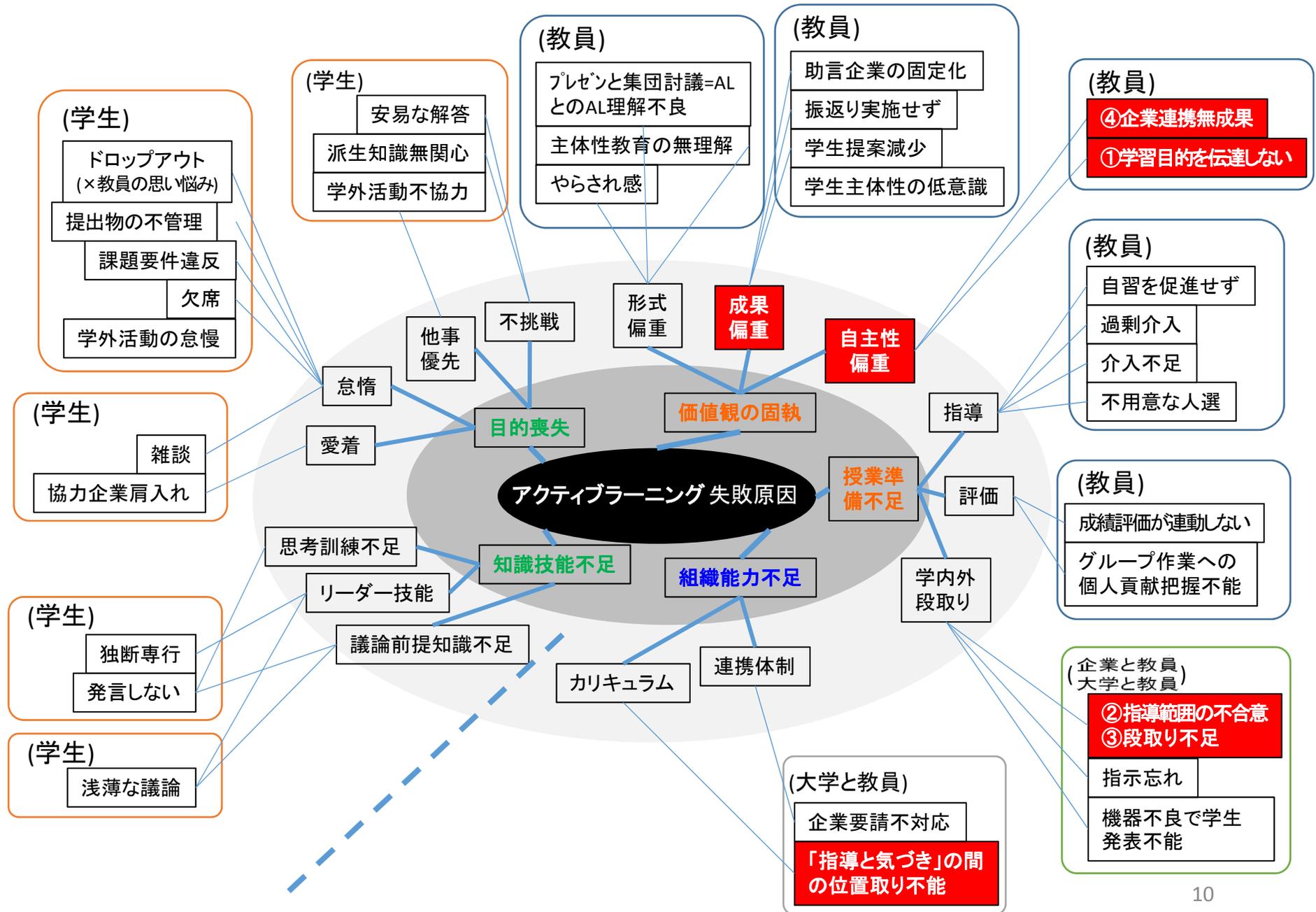
評価 2 「成果物への客観性の欠如」

評価 3 「連携企業と教員の学生に対する評価の違い」

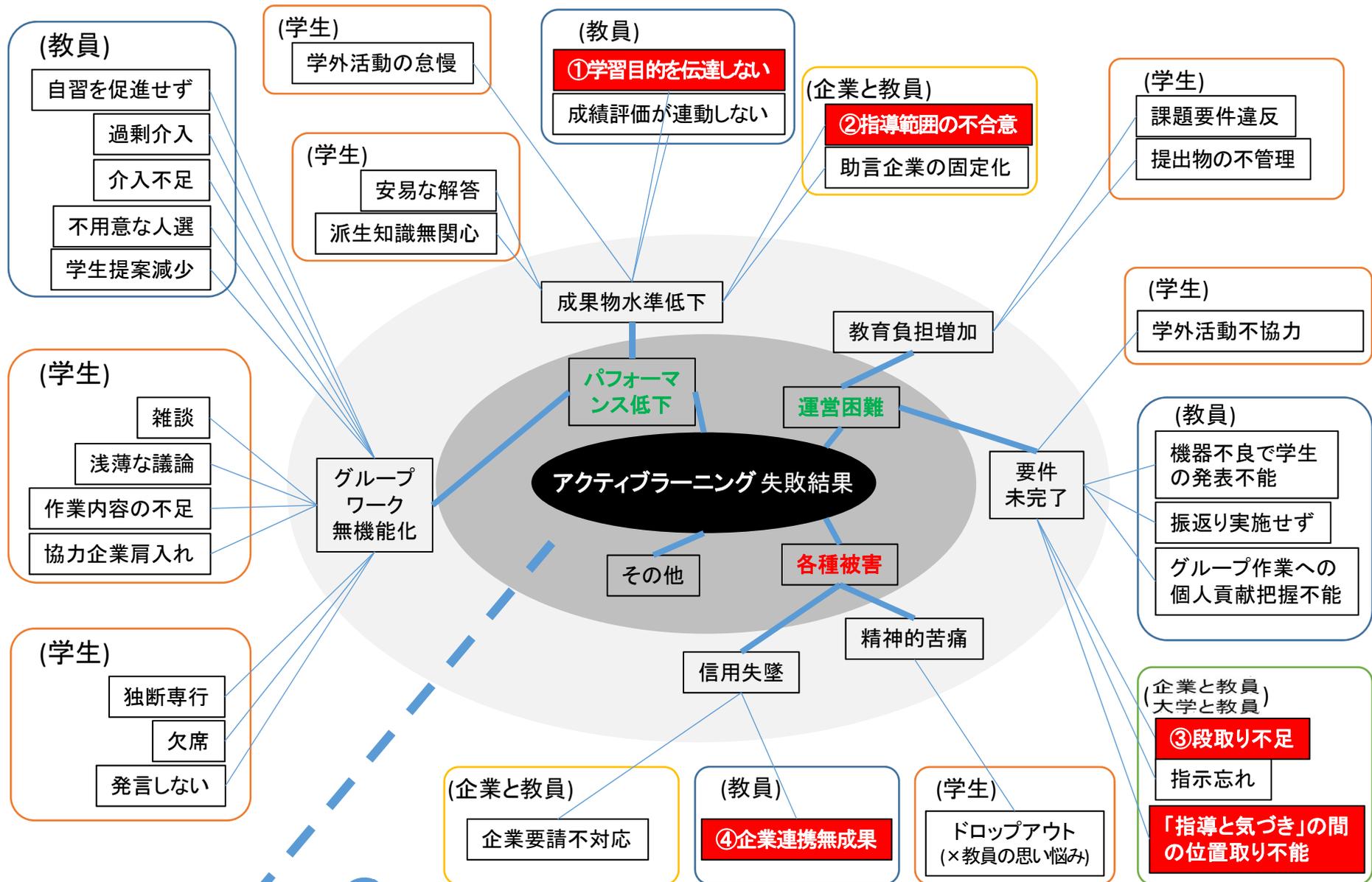
評価 4 「学びのための成績評価（Assessment for Learning）」

評価 5 「企業人の求める評価基準だけが正しいのか」

# アクティブラーニング失敗原因マンダラ



# アクティブラーニング失敗結果マンダラ



個別授業の教育問題から、(大学の)仕組みやカリキュラム問題へ

# AL失敗の基本3パターン

1. 学びが「**アクティブ(active)**でない」こと
  - 学びのアクティブって一体何だろうか... ???
2. そもそも「**学び(learning)**がない」こと
  - 科目目的は？ その活動の狙いは？
  - 全学／学部の教育目標は？ 位置づけは？  
→「都市計画」(発言問題)
3. 教員が「**近視眼(myopia)**」となること
  - 専門性教育はもちろん大切。
  - 但し、将来構想のない専門性教育は悪手。  
(**将来構想力** = **imagination**)

## ACTIVE → 学生行動の理解へ

Q. 次のうち、アクティブラーニングの授業に該当すると思われるものはどれですか？（複数回答可）

- ①グループワーク、プレゼンテーション、討論
- ②教員による熱心で丁寧な講義
- ③予習復習、授業内小テスト、中間レポート
- ④どれも該当しない

A.

- ①
- ②
- ③

→ 「**自らの力で学ぼうとし、活用しようとする**」

# LEARNING → 適切な目標設定

Q. 次のうちアクティブラーニングの学びに該当すると思われるものはどれですか？(複数回答可)

- ① 学習項目の記憶・暗記
- ② 記憶した学習項目の活用
- ③ 汎用的能力や社会人基礎力の醸成
- ④ キャリアの形成

A.

- ①
- ②
- ③
- ④

→ 「**科目の目的やその学習の狙いに準ずる**」  
... 適切な課題設計に通ずる。

Myopia近視眼 → Ownership, Stewardship

Q. 次のうちアクティブラーニングが上手いかない原因として該当すると思われるものはどれですか？(複数回答可)

- ①目の前の仕事をしっかりしているので問題ない
- ②努力する教員への適切なインセンティブ不足
- ③アクティブに学ばない／力のない学生の問題

A.

- ①
- ②
- ③

“Imagination構想力” (I.Kant, 純粹理性批判)

→ 「時代を見すえて科目の説明責任を果たす」

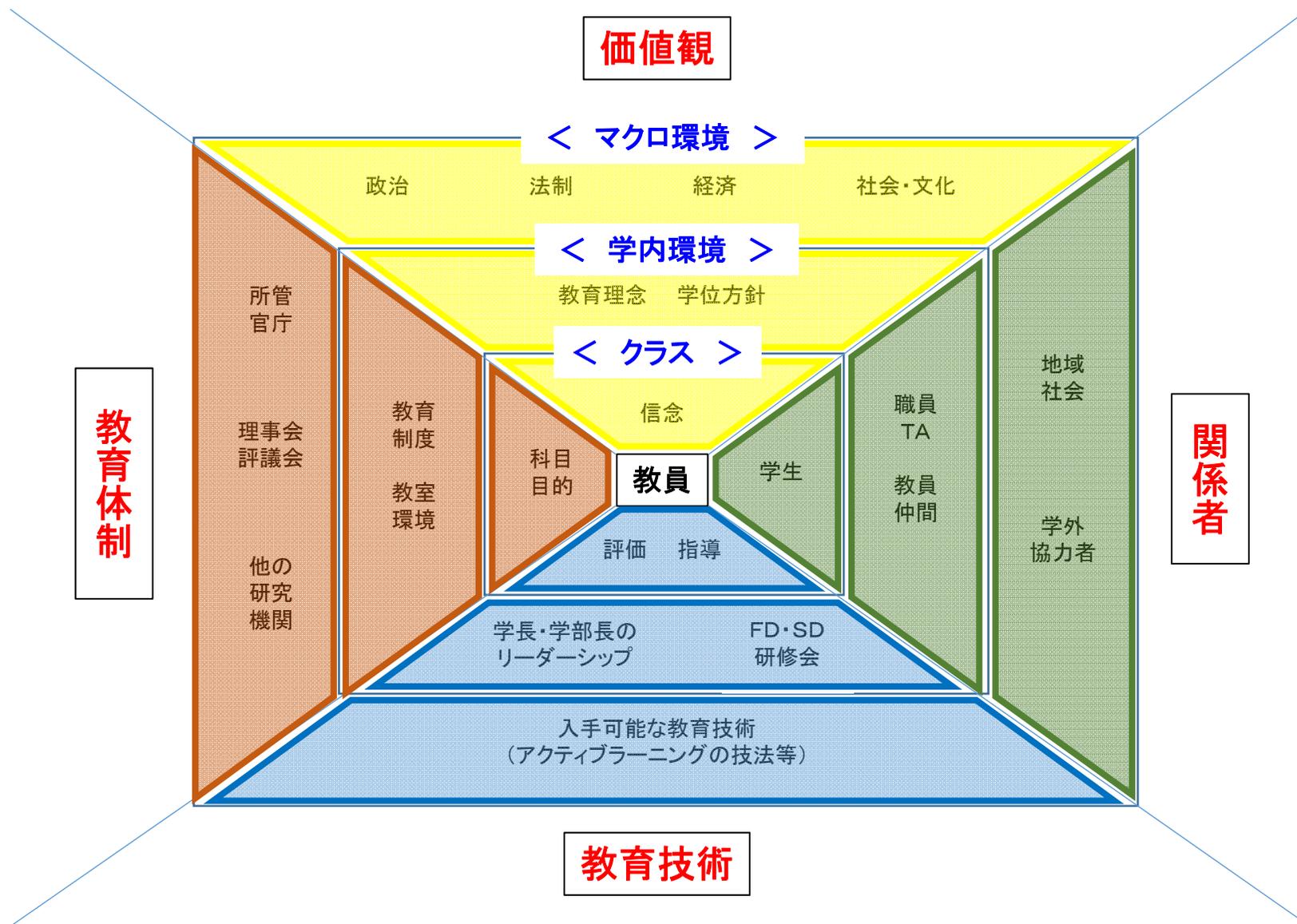
しかし、時代の要求を完璧に表現するのは困難...

## 2. ALの効果をもめるノウハウ

- (1) ALの学習環境を構造的に理解する
- (2) 地域社会や産業界の要請を理解する  
(=科目目的とAL狙いの両側面を意識する)
- (3) [指導面] GWは全員が学べるように工夫する
- (4) [指導面] 課題の設計を工夫する

※GW...Group Work

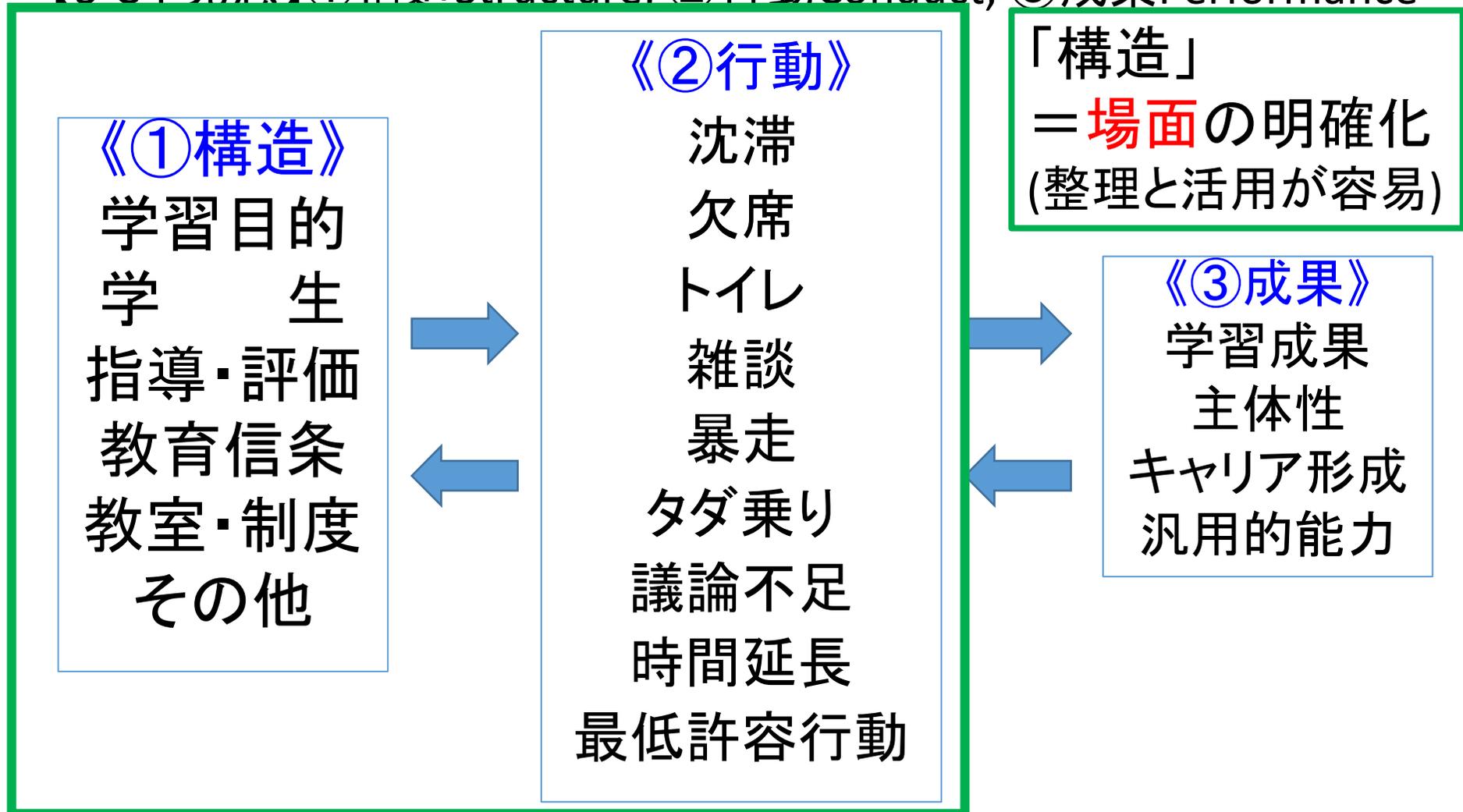
# (1)AL教育環境



[出典] 拙著『失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング』(2016), p.20

# S-C-Pの発想 ※産業組織論の知見の一部

【S-C-P発想】①構造Structure. ②行動Conduct, ③成果Performance



※着想のヒント 2013.5.18失敗学ワークショップ(産業界ニーズ中部地域23大学向け)  
講師:飯野謙次(失敗学会・理事副会長 / SYDROSE LP 代表)

## (2)地域社会や産業界からの要請

### ◆新入社員の实態 その背後で...

#### 『3つの喪失』

#### (1)年功の喪失? 「目上だから偉いのか」

- 「年齢に関係なく、実力ある若手を登用しよう」
- 目上(上司教員?)の意義や権威が薄れつつある

#### (2)下積みの喪失? 「いきなり現場に」

- 新入社員「下積みより、やりがい」
- 結果出ない「私には向かない、正当な評価を」

#### (3)コミュニケーションの喪失? 「信頼どこで学ぶ」

- エコノミック・アニマル、ゆとり教育、W/L-Balance
- ICTの進展とリアル離れ、ハラスメント警戒

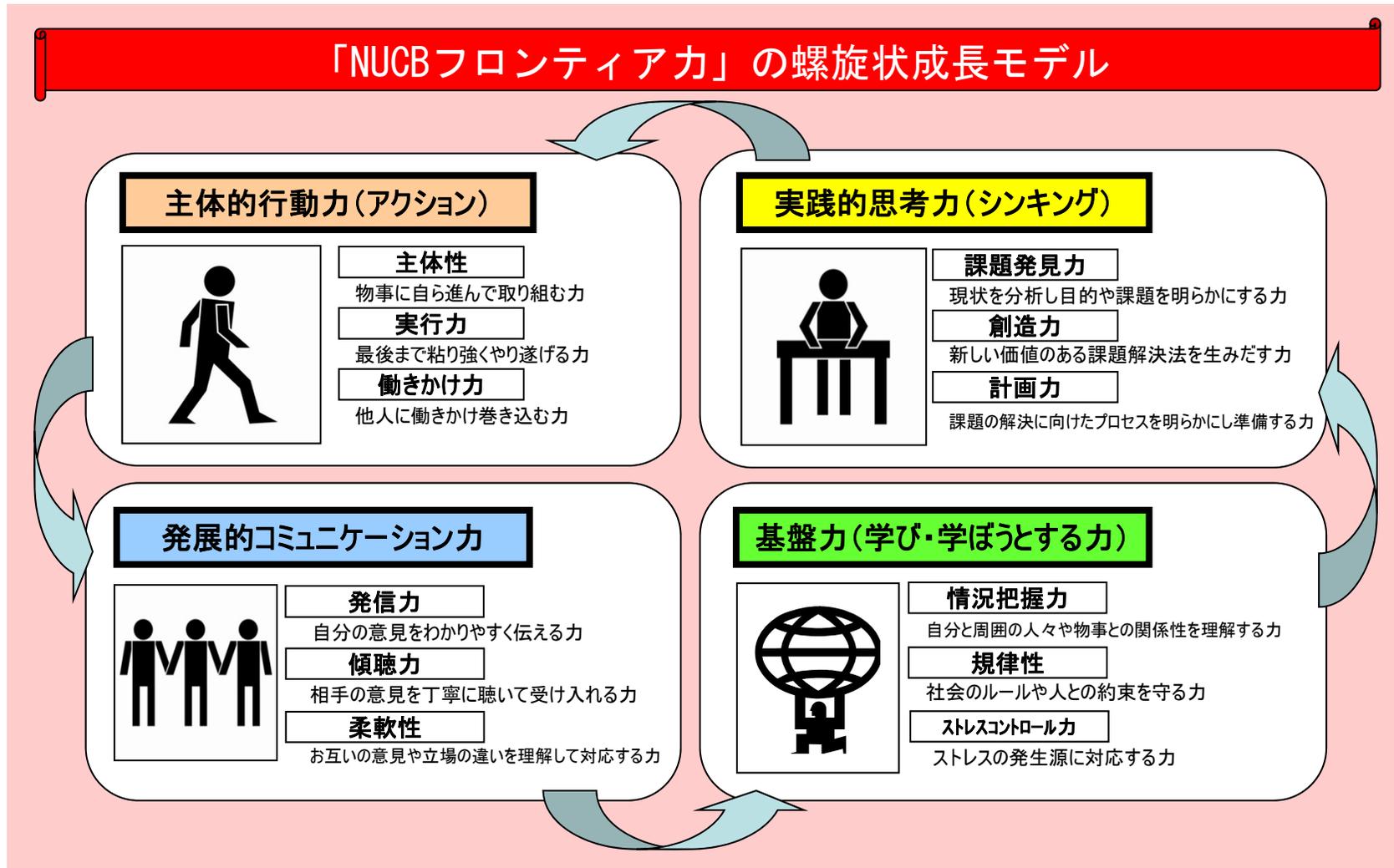
# 科目目的(Learning Goals)

建学理念や人材育成理念に照らし、カリキュラムやシラバスに位置づけされた「科目の学習目標」

[一例]

- 批判的思考
- 多様性のマネジメント
- 倫理的精神
- 分析的決定
- グローバルな視野、など

# AL狙い(=学習プロセスで習得する資質能力)



# (3)GWは全員が学べることが大事

Q. なぜGW(Group Work)が話題になるのか？

→A. 慣れない／時間無駄／学生知識能力無い

→A. 何が成功か失敗かの判断すら難しい。

[ケース]GWである学生が元気よく発言していた。

教師1－成功。発言者がいてGWが活性化。

教師2－成功。全員発言目指し、最後の発言者。

教師3－失敗。発言内容が雑談。

教師4－成功。発言内容が課題に沿う。

教師5－失敗。課題に沿っても教員要求水準に劣る。

[問題点]

- ・AL狙いと科目目的に整合すれば成功か？
- ・発言者以外の一人ひとりの学びは保証されているか？  
...溝上慎一監修(2016)東信堂の「ALシリーズ」

## (4)AL課題設計 ～学修目標・作業時間・学習動機

[次元1. 正解はあるのか] = 正解を問うか vs. 自分の考えを問うか

●議論としては前者が「収束型」で、後者が「発散型」になる。

●基本的に前者は「楽しく・刺激的に」、後者は「自由に楽しく」学ぶ。

→★正解を問えば発想が広がらず、考えを問えばまとめに時間がかかる(一例)

[次元2. 作業は段取りされているのか]

= 作業の手続きや段取りは懇切丁寧か vs. 学生任せか

●形式指定すれば「作業しやすい」し、白紙同様なら「型に嵌めず創造的になる」。

●段取りの充実は「思考法の取得」になり、逆は「悩む分だけ自分のものになる」。

→★型に嵌めれば自由な思考を束縛し、逆だと傍系作業に囚われる(一例)

[次元3. 学生はどうして作業に取り組むのか]

= 作業に取り組もうと感じる意欲・動機は内的か外的か

●単位や成績評価とどのくらい紐付けされているか。

●課題の狙いや目的などの趣旨説明はどの程度なされたか。

→★趣旨説明不足と過度な単位縛りは「やらされ感」を増す(一例)

# 3. PBL教育について

(1) 3つの科目と象徴的な3つの失敗事例

(2) カリキュラムを通じて「学びの深さ」を実現する

# PBLについてのIntroduction

## (1) Project / Problem -- Based Learning

→ 「目的学習」

## (2) 協同学習

→ 「チーム仲間との協働」

ex. サービス・マネジメント、地域社会連携

cf.

・リーダーシップ...『創造』

・マネジメント... 『管理』

= 学びの「深さ」

# 「深さの系譜」との関わり(松下佳代,2015)

## ①深い学習

講義中心 知識技能の習得 **論理**や**経験**と関連させ繋げられる。

→三本柱の論理構造を比較整理して位置づける。(定試)

→理論を19c-20cのアメリカの経済実態と関連付ける。(⑤)

## ②深い理解 (＝使える・活用できる)

ワーク中心 **転移可能性**や**解釈応用**や**メタ認知的知識**も含む。

→現代ビジネスや日本的経営との関連を考える。(①)

→資格試験の発展的な問いに対して応用が利く。(②③)

→学んだことを他の学問分野に結び付ける。(④)

## ③深い関与

学生の関与 動機付け。

→次スライド以降を参照。

## [官僚制の逆機能] (by. Robert K. Merton)

① <u>訓練された無能</u>	(状況変化に対応できない)同調過剰。規則に固執することで、変化した状況に対応できなくなる。
② <u>最低許容行動</u>	(積極的に行動しない)処罰されない程度に規則に従い、積極的な言動をしなくなる。
③ <u>目標の転移</u>	(本来の目的を見失う)目的と手段の関係が転倒し、規則の遵守自体が目的となってしまう。 <u>成功の罨</u> (成功経験が成功までのプロセスの全てを正当化してしまう)。
④ <u>革新の阻害</u>	(変化に抵抗する)何か新しいことを取り入れて変革しようと試みると、 <u>既得権益</u> を保持しているメンバーからの抵抗を受ける。

# 担当科目とその特徴

- ↑ 「NUCBフロンティア力育成講座」(GW企画実践)
- 「インターンシップ論」(GW・主体的発言・プレゼン)
- 「ビジネスプランニング実践」(輪読・GW・提言)
- 「セミナー」(輪読→GW[グループワーク])
- 「中部地域の都市計画」(講演・質疑・主体的発言)
- 「リーダーシップ」(講義・workshop・プレゼン)
- ↓ 「経営学入門」(講義 ※変革中...)

「教師・講師からの一方通行」に近い授業から

「学生の発言や対話」によって構築される授業まで

# 地域・産業界連携の3授業

地域概論  
(1年)

地域(9市町=尾張旭市、瀬戸市、東郷町、豊明市、豊田市、長久手町、名古屋市、日進市、みよし市)の「地域づくりと成長のための課題」を「**学び**」ます。

ビジネスプランニング実践(2年)

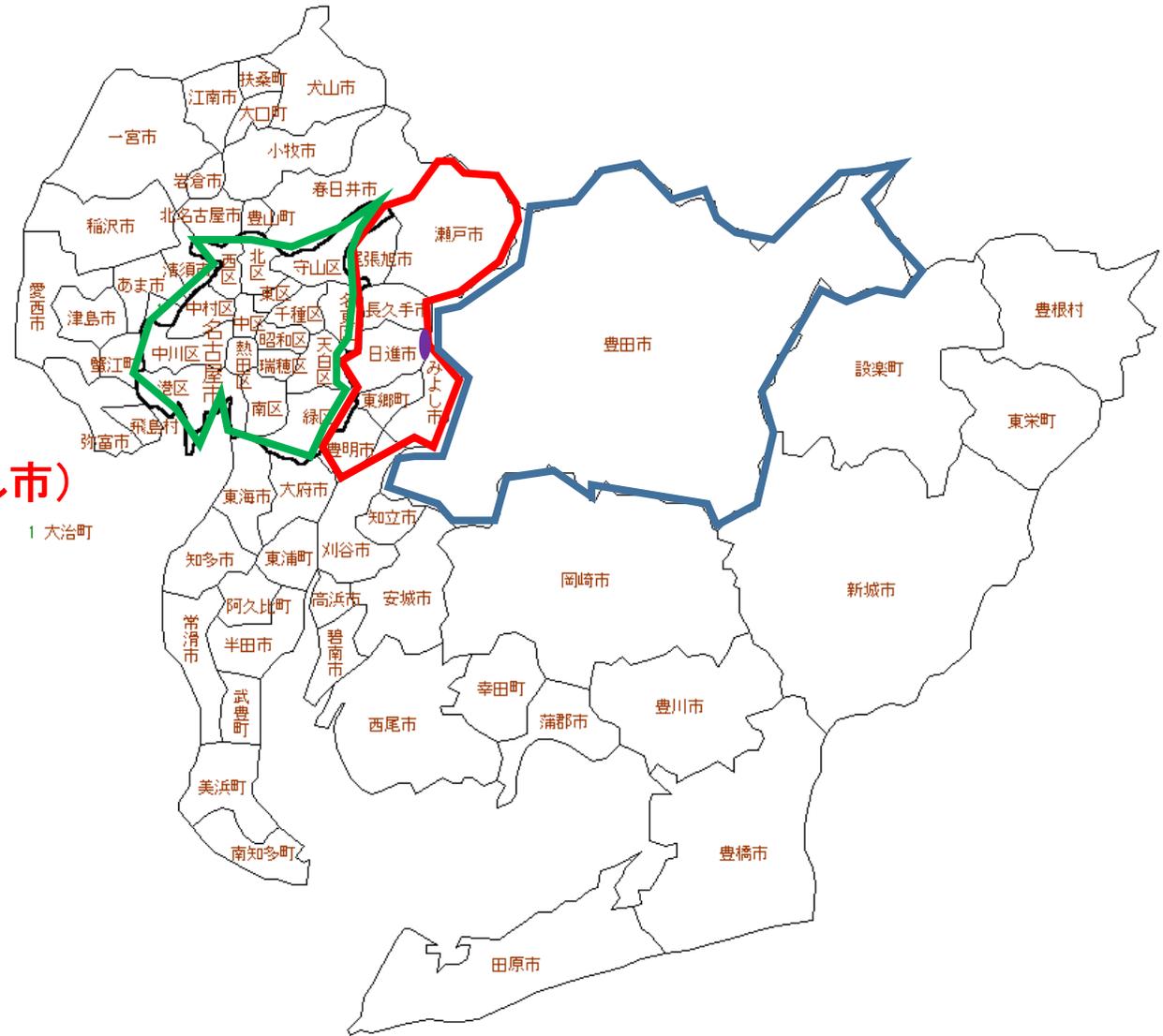
地域の魅力を外部に発信します。ホームページや小冊子を作成します。これらは広く世の中に広めていきます。学生目線から地域の隠れた魅力を「**提案**」します。

フロンティア力育成講座(3年)

地域の発展のための「企画」をたて、それを実際に「運営」します。その過程では、JTB等の企業や、各市町村の役所、そして市民の皆様と関わります。産業界・社会の目線から地域発展に向け「**議論・構築**」します。

# 名商大の協力近隣9市町

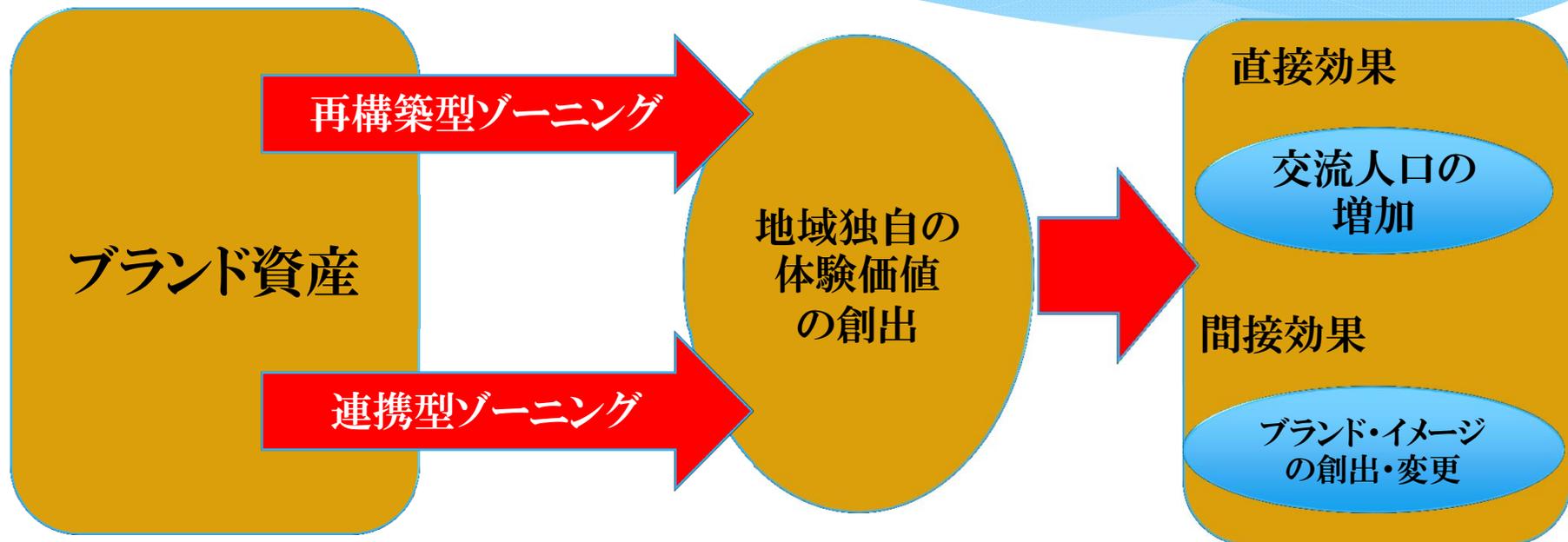
- 名古屋市
- 豊田市
- 回廊7市町  
(尾張旭市、瀬戸市、  
長久手市、日進市、  
東郷町、豊明市、みよし市)
- 名古屋商科大学



# ①中部地域の都市計画



## ② Bizプラ：戦略的ゾーニングの流れ



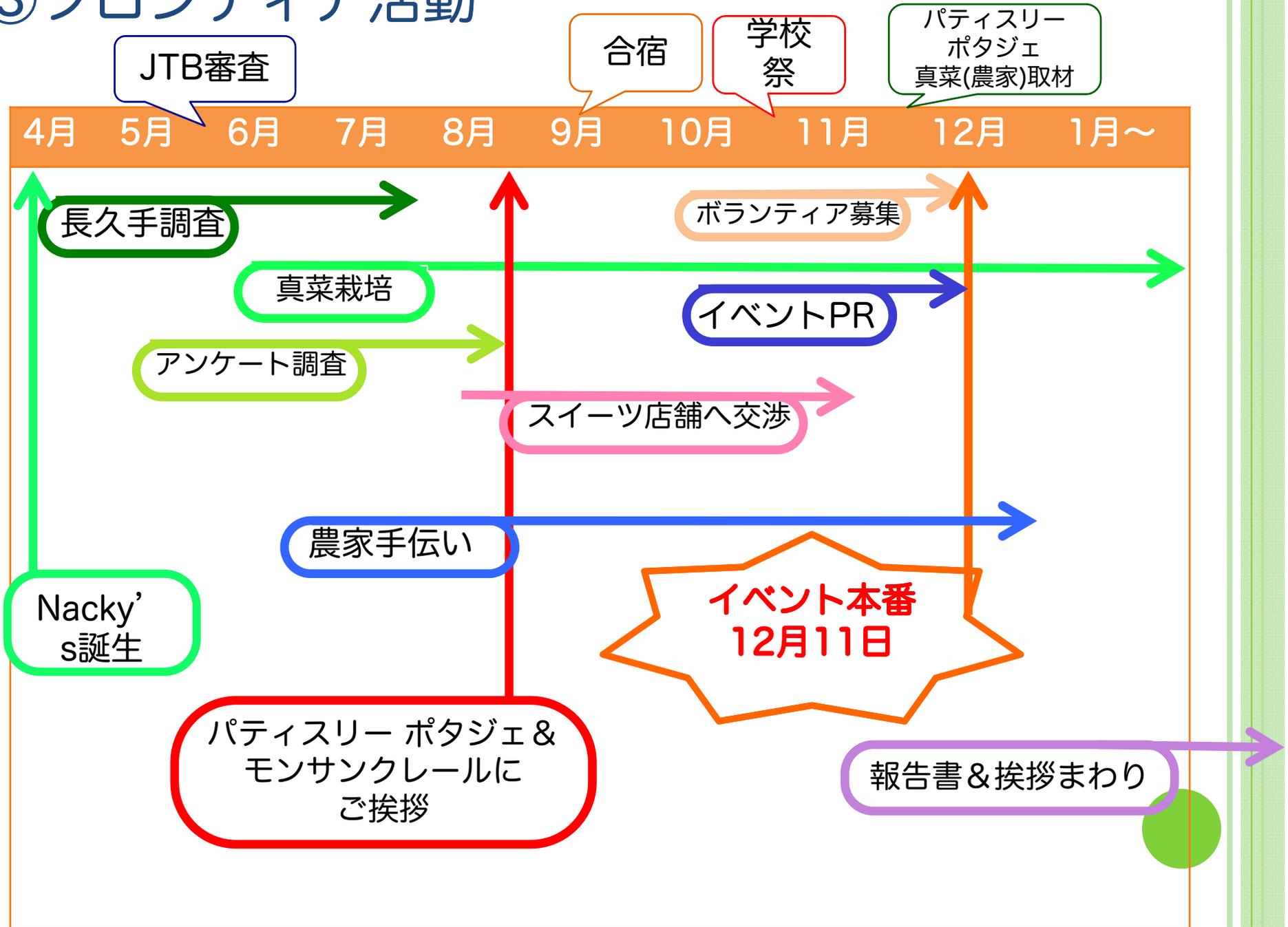
## <岩崎城・白山林・松ヶ根・仏ヶ根の戦い>



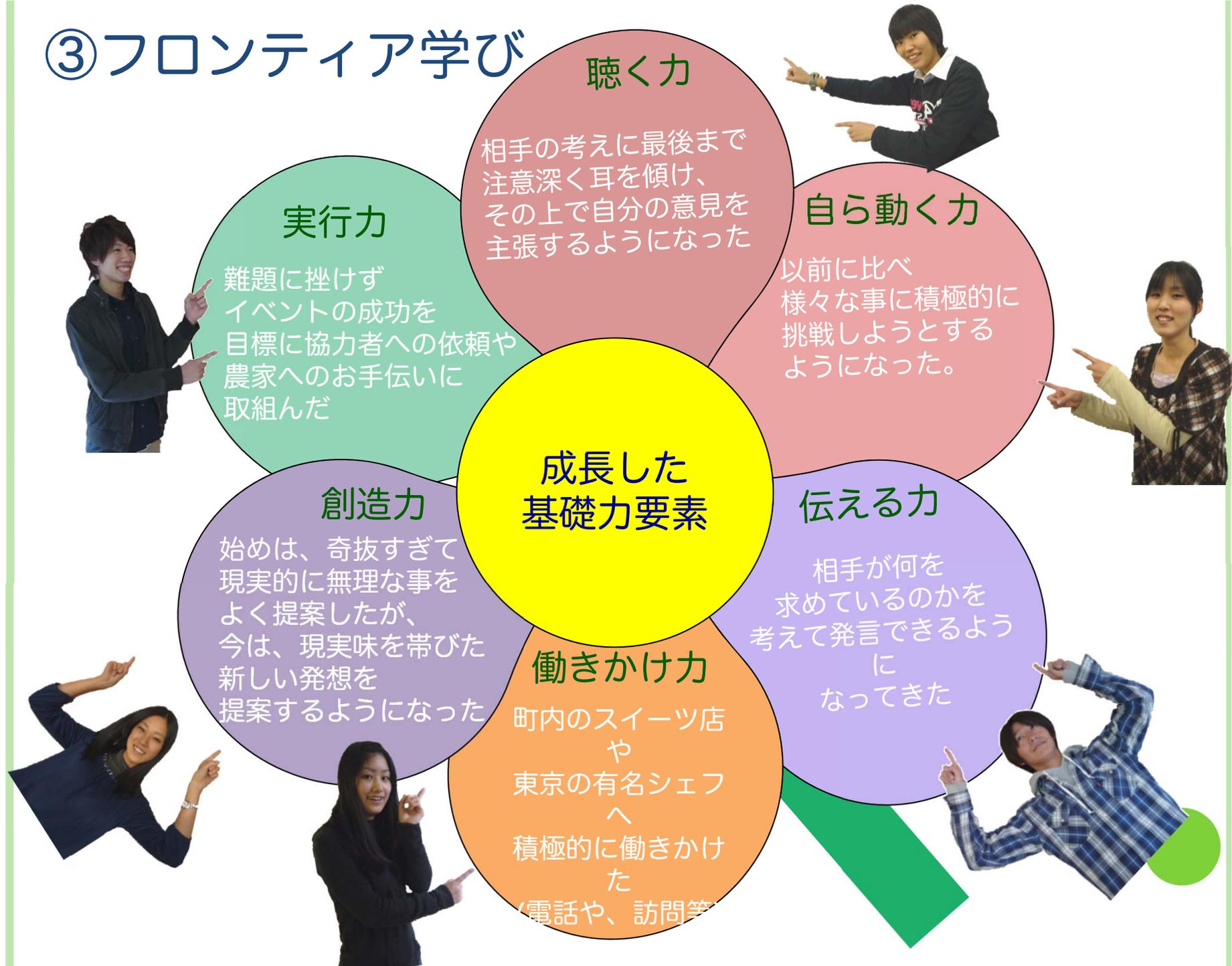
## ② ビジプラ提言(例)

- ・城をチェックポイントとした観光マップの作成
- ・ルートに沿って祭り等のイベントを展開

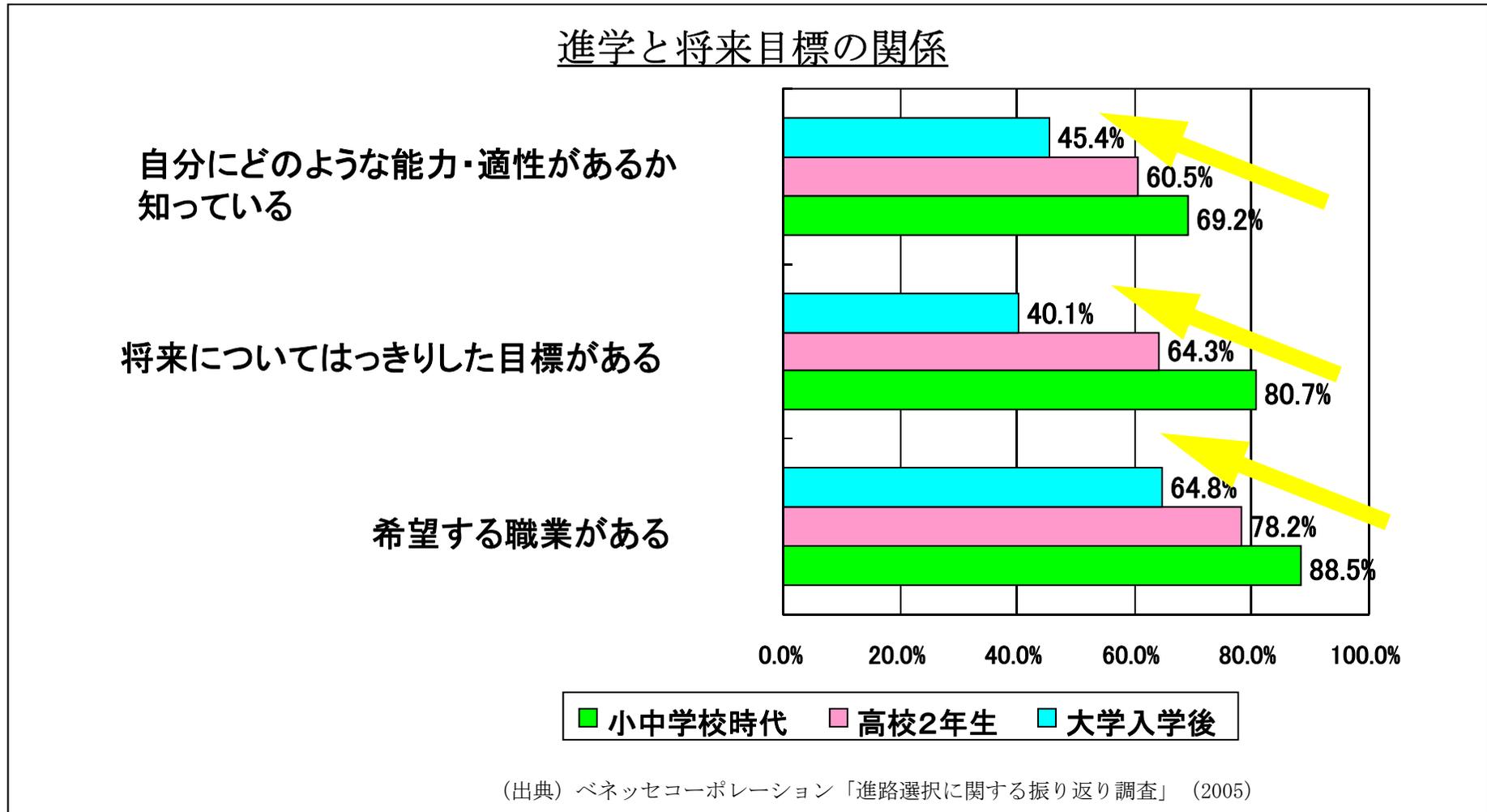
### ③ フロントティア活動



### ③フロンティア学び



# 最後に... 私がALに関わっている最大の理由



何かをやりたいという目標は活動のエネルギーになる。  
これがActive Learningの源泉であって欲しい…。

貴重な機会を頂けたことに  
厚く御礼を申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。

亀倉正彦 名古屋商科大学

[kamekura@nucba.ac.jp](mailto:kamekura@nucba.ac.jp)